



兵庫県の「ストップザ獣害事業」を活用



01/26/2016 16:01:20 30 Sec

センサーカメラ等の活用により捕獲効率の向上を図る。



箱罟は地域でこまめに移設





その結果、捕獲数は増加傾向

■捕獲実績

H29年度：鹿 1頭・猪 9頭(檻3基)

H30年度：鹿 2頭・猪 11頭(檻6基)

R 1年度：鹿18頭・猪 18頭(檻8基)

R 2年度：鹿 19頭・猪20頭(檻8基)

※令和2年度は1月末時点

■合せて集落柵の補強・延長

- ・平成30年度より年に1度、鉄柵補強・環境整備作業を実施！
- ・令和2年度も330mの延長を実施

■甚大な被害の農地が減少

鉄柵の延長作業(2020年11月)



従来の鉄柵と業者推奨の鉄柵を比較で330m延長

獣害被害状況



獣害被害状況

平成30年度の実情

- 20頭/3年
- 10-20頭/3年

被害金額: 360万円(H28) → 30万円(H29) → 30万円(H30)

獣害被害状況



被害金額: 360万円 (H28) → 30万円 (H29) → 30万円 (H30) → 5万円 (R1)

これからの課題

- 川、道路からの野生動物の進入
- 柵の老朽化後の再設置
- 獣害被害発生時の緊急対応
- 捕獲動物の解体処理
- 高齢化による出役可能人数の減少